

準用河川山際川洪水浸水想定区域図

【浸水継続時間（想定最大規模）50分総雨量132.9mm③】

1 概要

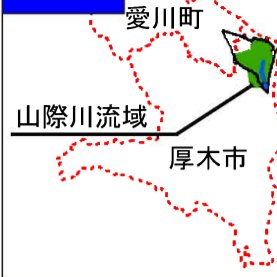
想定し得る最大規模の降雨があった場合の浸水継続時間を表示した図面です。氾濫水が到達後、屋外への避難が困難となり孤立する可能性のある浸水深である0.5mに達してから、その水深を下回るまでにかかる時間を示すものです。想定最大規模降雨とは、「洪水浸水想定区域図作成マニュアル（第4版）」により算出し、50分の総雨量として132.9mmの雨が降ることを想定しています。浸水深とは、浸水域の地面から水面までの高さを表します。想定最大流域とは、計画規模以上の降雨により、地形的に準用河川山際川へ流入する流域となっています。

2 基本事項

- (1) 作成 平成31年3月
- (2) 対象となる河川 準用河川山際川

上流端：山際字神明ノ木地先 下流端：相模川合流点

位置図



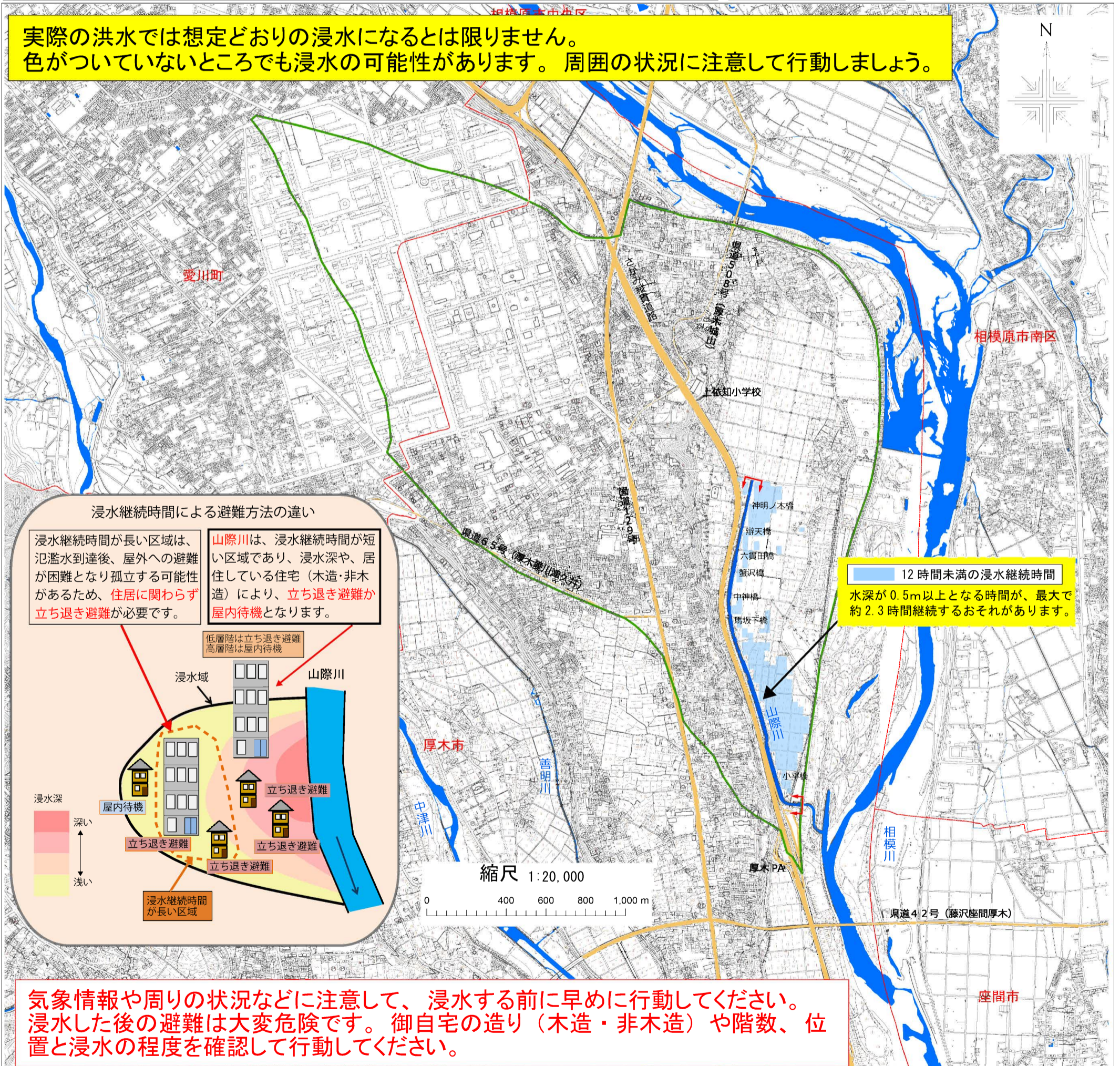
索引図



凡例

- 浸水継続時間
12時間未満
- 準用河川区間
- 想定最大流域界
- 行政界

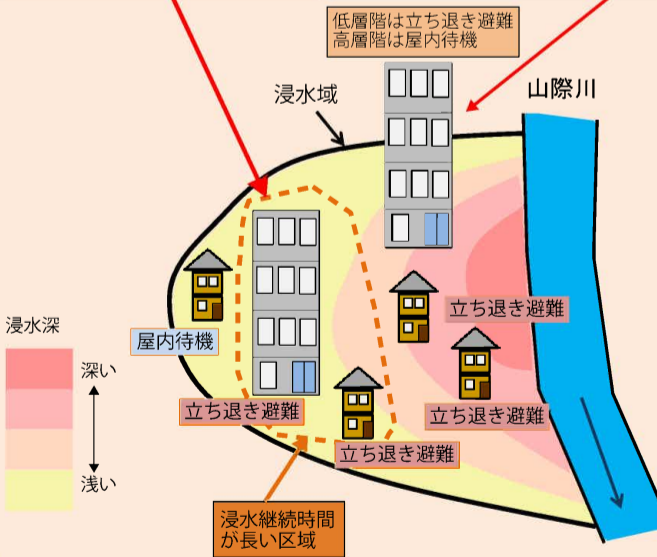
実際の洪水では想定どおりの浸水になるとは限りません。色がついていないところでも浸水の可能性があります。周囲の状況に注意して行動しましょう。



浸水継続時間による避難方法の違い

浸水継続時間が長い区域は、氾濫水到達後、屋外への避難が困難となり孤立する可能性があるため、**住居に関わらず立ち退き避難**が必要です。

山際川は、浸水継続時間が短い区域であり、浸水深や、居住している住宅（木造・非木造）により、**立ち退き避難か屋内待機**となります。



気象情報や周りの状況などに注意して、浸水する前に早めに行動してください。浸水した後の避難は大変危険です。御自宅の造り（木造・非木造）や階数、位置と浸水の程度を確認して行動してください。

準用河川山際川の洪水の氾濫による浸水のほかに、一級河川相模川における洪水の氾濫による浸水が発生する可能性があることにも注意してください。

ご自分の地域やご自宅付近で、どの程度の浸水になるか、この洪水浸水想定区域図で確認してください。